

<注意事項>

※赤文字は削除してご使用ください。

※フォントは 12 ポイント以上/推奨フォント Meiryu UI、余白は 10mm 以上でご記入ください

※各項目の枠の幅はご自由に設定ください。

No.【2021034】

※画像、写真、イラスト等添付可能ですが、必ず用紙の中に収まるようにお願いします。

**【エントリー名】不妊当事者の声で新しいあたり前を創る「不妊治療の保険適用」実現に向けて**

**【事業主体】**

NPO 法人 Fine

**【カテゴリー】いずれか 1 つに✓を入れてください。**

- マーケティング       コーポレート       ソーシャルグッド
- その他（システム開発、研究活動、執筆など①～③にあてはまらないもの）

案件概要： Describe the campaign/entry

- 晩婚化・晩産化に伴い、不妊治療を受けるカップルが増加、年間の体外受精は約 45 万件（2018 年時点）に上る中、**これまで、体外受精など特定不妊治療は保険適用外だった。**この状況を変えるため、不妊体験者のセルフ・サポートグループである Fine は**不妊経験者の生の声を軸にした情報創りと発信に取り組んだ。**
- Fine にはこれまで不妊治療の有無に関わらず、不妊体験を有する人 14 万人が参加。カウンセリング事業を通して得た、不妊や不妊治療と向き合う男女の生の声、特に**経済的負担により不妊治療を諦めたり、中断したり、やむを得ず仕事を退職しなければならない深刻な状況を調査レポートとして定量的にも可視化。**
- 当事者の体験談と客観的なデータを基に、保険適用など**不妊治療に対して当事者の選択肢を増やし、より選択しやすい環境整備に向けて超党派議員連盟や行政、関連学会、民間企業への働きかけを推進。**
- 産官学と連携した“不妊治療があたり前に選択できる社会”の実現に向けた取り組みの結果、**22 年 4 月より不妊治療に公的医療保険を適用する方針が決定。**

解決すべき課題： Challenges

- 日本で何らかの**不妊治療・検査を受けたことがあるカップルは 5.5 組に 1 組**と言われ、不妊に悩んだことがあるカップルは 3 組に 1 組と言われている。
- 一方で、**不妊治療には 4 つの負担がある。**第 1 は治療に伴う痛みや副作用などの「**身体的負担**」、第 2 は仕事と治療の両立など「**時間的負担**」、第 3 は周囲からのプレッシャーや自己嫌悪、自己否定など「**精神的負担**」。そして、最後が高額な治療費による「**経済的負担**」である。
- これまで不妊治療の多くは健康保険が使えず、自費診療となり、体外受精となると 1 回の治療費が 40-60 万以上かかる状況**にあった。
- そのため、不妊に悩む当事者は費用の工面に苦心し、**費用を理由に体外受精を諦めるカップルも多く、治療しても妊娠・出産できず「お金が続かない」と治療を断念する人も後を絶たない。**また、**若い世代は費用負担の点から、不妊治療をすぐに受けられないケースが多く、結果、治療の高齢化および長期化に繋がっている。**

パブリックリレーションズとしての視点： Why PR ?

- ポイントは、**不妊当事者・経験者 14 万人の「隠れた声なき声を可視化**して、産官学の協力者との強固な関係を元に「**新しいあたり前＝ルールを創る**」こと。
- 「不妊治療に伴う経済損失」や「若い世代の経済負担に伴う治療中断」の現実について、**定性的な声に止まらず、定量的に具体的に可視化して情報発信**することで、その課題の深刻さや重大性を顕在化すると共に、少子化という社会課題において、対応すべきニーズと理解を促す情報を発信した。
- 政治には潜在的な声を集約、「不妊治療への保険適用」や医療情報開示など様々な要望書を提出**すると共に議員向け勉強会も実施。法人・企業には、仕事と不妊治療の両立へ、不妊治療に理解ある職場創りを提言するガイドラインも作成、**新たなルール（＝合意形成）の方向性と具現化の方法も提示。**

課題解決のための戦略： Strategy

- 基本戦略は、**不妊体験者の声なき声を集め、定量的に調査レポートとして可視化**、課題の大きさについてインパクトを与え継続的に発信するということ。
- 調査レポートを厚労省の検討部局、議員関係者に率先して提供**すると共に、要望書提出、勉強会・検討会で不妊経験者の代弁者として意見を表明。
- 会を代表して、**不妊経験者でもあるスークスパーソンの理事長が積極的にメディアで新しいルール作りの必要性を提唱。**信頼性が高く、世論形成を後押しするテレビの討論番組や新聞のオピニオン面などを中心に、各種メディアを通して現状の課題とそこに直面する当事者の生の声を訴え、不妊や不妊治療を特別なことではなく、身近なこと、自分毎として捉えてもらうための発信に努めた。
- 経済的な負担軽減に向けて不妊治療の保険適用を訴えると共に、「**仕事と不妊治療**」という、**より多くの人にとって関心事となるテーマについても、ガイドライン作りと新しい働き方に積極的に取り組む企業での勉強会の展開など、社会の新しい流れを捉えて活動を展開した。**
- イベント等で**男性不妊の当事者の声、体験談を聞く機会を創り**、不妊や不妊治療は二人で行なうものという、女性だけに止まらない課題であるというメッセージも広く発信した。

課題解決のためのアイデア： Idea

- 「**不妊治療で退職 経済損失は 1,345 億円超**」「**不妊治療 1 回の平均治療費 50 万**」など、不妊治療の実態を示すインパクトある調査結果を試算・公表。
- 不妊治療経験を有する**野田聖子議員も所属する「不妊治療への支援拡充を目指す議員連盟」と連携**、要望書を代表から直接手渡しメディアにも訴求。
- 女性活躍などの社会的気運と相反する「不妊退職」などのキーワード**等を通じ、メディアの共感・関心を引きつけ、生活者の興味を惹き、社会的な議論を促した。
- 不妊治療に理解ある職場環境づくりを提言する「**プレ・マタニティハラスメント防止ガイドライン**」を作成。不妊治療の経済負担軽減に加え、職場の不妊治療の理解を訴え、96%が「不妊治療と仕事の両立困難」4 人に一人が不妊退職」という話題から、保険適用に加え、企業における両立制度と風土情勢の必要性も提起。

活動内容： Execution

- 「**不妊治療の経済負担**」と「**不妊治療と仕事の両立**」をテーマに**当事者の声を可視化する大規模調査**を複数年に亘り計 5 回実施（延べ 12,000 人の声を集める）
- 大規模調査レポートを元に、「**不妊治療と仕事の両立・経済的負担軽減に関する要望書**」を**厚生労働大臣などに手渡し、直接請願**を実施（複数年、計 16 回）
- 不妊治療の理解を求める国会勉強会を開催。**国会議員・厚労省/内閣府担当者・不妊当事者が一堂に会し意見交換。68 名の超党派の国会議員が参加。
- 不妊治療の支援拡充を目指す**議員連盟設立総会に代表・松本亜樹子が参列**、不妊治療を取り巻く環境や不妊当事者が抱える課題についての概要を発表。
- 企業向けに不妊治療支援制度を導入するための『**不妊治療支援を通じた更なる女性活躍推進について「制度導入促進ガイド**』』を制作し、無料公開。
- 不妊治療に対する理解ある職場環境づくりを提言する「**プレ・マタニティハラスメント防止ガイドライン**」を作成。

目標に対する直接的・間接的な成果： Results

- 2022 年 4 月より**不妊治療に公的医療保険を適用する方針が決定。**体外受精、顕微授精、男性の不妊治療など全額自己負担であった治療も保険適用見込。
- 2021 年 1 月から**不妊治療支援事業の助成が拡充。**保険適用外の体外受精、顕微授精を対象に所得制限の撤廃、助成額・1 子毎の助成回数も拡充。
- 2020 年 6 月から施工された「**ハラスメント法**」において「**不妊治療に対するハラスメント**」が**明記**され、「不妊治療に対する否定的な言動」が、妊娠・出産等に関するハラスメントに該当することが示された。
- 論調形成に寄与する主要なメディアにて多数の報道を獲得。**（調査結果や代表・松本亜樹子のインタビュー等の内容で、テレビ 57 件、新聞 301 件の報道）。